

「たとえ不利になったとしても」  
～主イエス様の裁判に学ぶ～

●本日の聖書箇所 ・マタイ 26:57～27:18（新改訳第3版 抜粋）

26:57 イエスをつかまえた人たちは、イエスを大祭司カヤパのところへ連れて行った。そこには、律法学者、長老たちが集まっていた。26:58 しかし、ペテロも遠くからイエスのあとをつけながら、大祭司の中庭まで入って行き、成り行きを見ようと役人たちといっしょにすわった。26:59 さて、祭司長たちと全議会は、イエスを死刑にするために、イエスを訴える偽証を求めている。26:60 偽証者がたくさん出て来たが、証拠はつかめなかった。しかし、最後にふたりの者が進み出て、26:61 言った。「この人は、『わたしは神の神殿をこわして、それを三日のうちに建て直せる』と言いました。」26:62 そこで、大祭司は立ち上がってイエスに言った。「何も答えられないのですか。この人たちが、あなたに不利な証言をしています、これはどうなのですか。」

26:63 しかし、イエスは黙っておられた。それで、大祭司はイエスに言った。「私は、生ける神によって、あなたに命じます。あなたは神の子キリストなのか、どうか。その答えを言いなさい。」26:64 イエスは彼に言われた。「あなたの言うとおりで。なお、あなたがたに言うておきますが、今からのち、人の子が、力ある方の右の座に着き、天の雲に乗って来るのを、あなたがたは見るようになります。」26:65 すると、大祭司は、自分の衣を引き裂いて言った。「神への冒涇だ。これでもまだ、証人が必要でしょうか。あなたがたは、今、神をけがすことばを聞いたのです。26:66 どう考えますか。」彼らは答えて、「彼は死刑に当たる」と言った。26:67 そうして、彼らはイエスの顔につばきをかけ、こぶしでなぐりつけ、また、他の者たちは、イエスを平手で打って、26:68 こう言った。「当ててみろ。キリスト。あなたを打ったのはだれか。」

・・・27:11 さて、イエスは総督の前に立たれた。すると、総督はイエスに「あなたは、ユダヤ人の王ですか」と尋ねた。イエスは彼に「そのとおりで」と言われた。27:12 しかし、祭司長、長老たちから訴えがなされたときは、何もお答えにならなかった。27:13 そのとき、ピラトはイエスに言った。「あんなにいろいろとあなたに不利な証言をしているのに、聞こえないのですか。」27:14 それでも、イエスは、どんな訴えに対しても一言もお答えにならなかった。それには総督も非常に驚いた。

●本日の聖書箇所② 第1 ペテロ 2:21～24

2:20 罪を犯したために打ちたたかれて、それを耐え忍んだからといって、何の誉れになるでしょう。けれども、善を行って苦しみを受け、それを耐え忍ぶとしたら、それは、神に喜ばれることです。2:21 あなたがたが召されたのは、実にそのためです。キリストも、あなたがたのために苦しみを受け、その足跡に従うようにと、あなたがたに模範を残されました。2:22 キリストは罪を犯したことがなく、その口に何の偽りも見いだされませんでした。2:23 ののしられても、ののしり返さず、苦しめられても、おどすことをせず、正しくさばかれる方にお任せになりました。2:24 そして自分から十字架の上で、私たちの罪をその身に負われました。それは、私たちが罪を離れ、義のために生きるためです。キリストの打ち傷のゆえに、あなたがたは、いやされたのです。

◆本日の説教のポイント

①イエスさまを模範として、時に、不利になっても沈黙しよう。(26: 35～44)

主イエス様に対して、ユダヤ人議会と、ピラトのもとにおけるローマ帝国による裁判がなされた。そのどちらの裁判においても、主イエス様に対してあきらかに不利な証言がなされたが、主イエス様は何も答えられなかった。そのことには大祭司も、ピラトも少なからず驚いた。

誰でも、自らに不当な訴え、不利な訴えがなされれば、反論し、時に感情を荒げてしまうのが普通である。しかし、主イエス様はあえて黙っておられた。なぜ、主イエス様は黙っておられたのであろうか。それは、正しく裁かれる神におまかせしていたからだ。聖書は教える。主イエス様の時代だけでなく、この世の中においては、残念ながら不当と思われる裁判がある。又、裁判とまではいなくても時に、家庭において、学び舎において、会社や地域社会において、不当な取り扱いが起り得る。しかし、神は必ず物事を正しく裁かれる方である。ヨセフ、ダビデ、ダニエル、…聖書の様々な事柄を通して、また歴史がその事を証明している。たとえ、この地上において正しい裁きがなされなかったとしても、人の心までさぐられる神ご自身が、来るべき世において正しく裁き、報いて下さると聖書は約束している。だからこそ、私達も主イエス様を模範として、最終的に神が報いて下さると信じて、時に、不利になっても沈黙する者となろう。

また、主イエス様が沈黙されたのは、私たちをの罪を身代わりに背負い、私たちが救われる為であったと記されている。(第1ペテロ 2:24～25)もし、主イエス様が正しく反論し、それが認められたなら、私達は救われなかったのである。私達が救われるために、あえて主イエスさまは沈黙を貫かれたのである。私たちも、様々な議論にまきこまれ、時に不当な言い分がまかりとおっていながらも、聖霊が私たちの心に「黙っているように」と導かれる事がある。私達は、聖霊にその事柄を委ね、黙っていることを通して、神の豊かな恵みのわざが広がっていくことを覚えよう。

私たちは、主イエス様を模範として、時に不利になっても沈黙する者となろう。

●分かち合いましょう。

①あなたにとって、あえて沈黙しておいた方がよい時は、

どんな時だと思いますか。

②聖霊の導きによって、あえて沈黙しておいて良かったと思う事がありますか。

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---